九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[01_1] 統計數理研究表紙会報等

https://hdl.handle.net/2324/12832

出版情報：統計数理研究. 1 (1), 1941-10-15. 統計科学研究会
バージョン：
権利関係：

卷　頭　言

創　刊　之　辭

統計科學研究會が、諸般の科學に於ける統計的研究法と統計事業との發達向上への寄與を目標とする恒久的な學術研究團体として、その成立を見たのは昭和十六年二月十八日の事であつた。その創立の共に決議された重要事項の一つに機關誌「**統計數理研究**」の刊行があつた。爾來數箇月、各方面の熱心な盡力と厚意ある支持とに依り漸くその準備成り、今日茲にその創刊を見るに至つた事は、吾々會員一同の深く欣びとする所であり、將來益々その內容の充實に努め、邦家のため學術のため、いさゝかの寄與を致さん事は、吾々の衷心より念願する所である。

從來吾が國に於いて刊行を見たる統計學關係の雜誌が、夫々の任務を立派に果しつゝ斯界に貢獻し來つた事は周知の事實であるが、吾々が平素顧みて遺憾に思ふ事は、近年統計方面の重要性が認識强調されつゝあるにも拘らず、又海外に於いては、その理論及び技術の進步が愈々精密有力となりつゝあるにも拘らず、獨り吾が國に於いては、これが根柢たる統計數理の研究のために、未だ Biometrika, Annals of Mathematics, Metron, Skandinavisk Actuarietidskrift 等の諸雜誌に比肩すべき程度のものなく、海外の現狀に比して吾が國の狀態が著しく立遲れて居り、その影響の波及する所、國策の準據たる統計事業、人的資源の活用、生產力擴充に應用すべき統計的管理法等に亙る事あらば誠に憂慮すべしと云ふ事である。

又これを學問進步の道程といふ純學術的見地より見るときにも、統計學的方法は、自然科學・文化科學の全分野を通じて、益々その重要性を認識せられつゝある事は、深い學的根柢に基因した當然の進路を示すものであつて、世界動亂の現在に於いても、吾々科學者技術家が孜々としてその進展に努力して現在及び將來に於けるその成果を期待すべき全科學的な指針の一つである。その理論的根據は暫く措き、單に事實に徵しても、數學に於ける確率論・數理統計學

の進歩、物理・化學に於ける統計力學的方法の應用、經濟學に於ける計量經濟學の勃興、心理學に於ける Factor Analysis、農學方面に於ける Analysis of Variance 等、吾々は此處に一つの大きな潮流を見出すであらう。科學及び技術の自主的發展を吾が國に持ち來らす事は、現在及び將來に亙つての、吾々科學者技術者の重大責務の一つであるが、凡そ一國學術技術の獨立・振興は、同國に於ける學者技術者が相依り相助けて長短相補ひ、重要問題に對しては、相協力して高度の能率化を圖り、學界・事業界を緊密に連絡し協力し合ふ事を必須な前提條件とする。

吾々が本會なる一學術研究團体を形成し、本誌を刊行し、各自の分野等からの問題を持寄り、知識・經驗を交換し、更に進んで重要問題に就いての統計法の數理及び技術を協同研究し、或は外部からの緊要な依囑に應じてこれに協力する等の事業を行ふと共に、他面、諸種の方策を以つて吾が國に於ける斯學の普及に努め、その一般的水準の向上を圖らんとするのは、斯くの如く眞にその必要止むなきを痛感しつゝあるために外ならない。

これを要するに「**統計數理研究**」の目標とするところは、凡ゆる分野に於ける統計科學的方法の數理及び諸技術の研究であり、而して、吾々會員に共通する事は科學的精神と總力的協働とである。この目標達成のため、本誌はその內容編輯上、必ずしも從來の學術雜誌の慣例に準據せず、有效適切な方法は遲滯なくこれを採用してその能率增進に努力するであらう。惟ふに吾々會員が、本誌を通じて果すべき使命は、刻下逼迫の諸要求への迅速有効な對處と統計科學永遠の進歩への確實な步武とを二つながら進める事にあり、その責任は誠に重且大であると痛感するものである。

昭和十六年九月

統計科學研究會編輯部